

研究課題 (テーマ)		富山県における介護予防活動へ参加する高齢者のヘルスリテラシーの実態	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部	助教	稲村 尚子
	看護学部	教授	張 平平
研究結果の概要			
<p>富山県の地域性を加味した健康寿命延伸への政策や事業、教育、看護支援活動へ活用できる基礎資料を得ることを目的に、2023年12月～2024年3月に保健センターの協力を得て富山県の介護予防・健康増進活動へ参加する高齢者を対象に European Health Literacy Survey Questionnaire (以下 HLS-EU-Q47) 日本語版を含む自記式無記名式質問紙調査を行った。</p> <p>配布した591部のうち、365名から回収が得られ(回収率61.8%)、回答不備があったものを除外した334名を本研究の分析対象とした(有効回答率91.5%)。対象者の年齢は平均76.9歳±6.5、8割以上が女性であり、健康への関心は「ある」「まあある」と回答した者は327名(98.0%)であった。健康情報の入手について、していないと回答したものが最も多かったのはインターネットから188名(56.3%)であった。また、HLS-EU-Q47の項目で回答が「困難」であった者の割合が最も多かったのは、「12.メディア(テレビ、インターネット、その他のメディア)から得た病気に関する情報が信頼できるかどうかを判断するのは(69.2%)」であった。</p> <p>HLS-EU-Q47の標準化指数は[総合HL]で平均28.8 ± 8.7であり、判定基準「やや不十分」に該当した。また、HL領域別では<ヘルスケア領域>27.6 ± 9.3、<疾病予防領域>32.5 ± 9.4、<ヘルスプロモーション領域>26.5 ± 10.0であり、HL能力別でも<<入手能力>>26.6 ± 9.2、<<理解能力>>31.3 ± 9.5、<<評価能力>>27.2 ± 9.7、<<活用能力>>30.6 ± 9.2と、3領域・4能力全て「やや不十分」に該当した。HLS-EU-Q47の標準化指数の平均の判定基準が「十分」に該当したのは<疾病予防領域>の<<理解能力>>38.2 ± 10.9のみで、<ヘルスケア領域>の<<入手能力>>24.8 ± 10.8と<<評価能力>>22.8 ± 10.8、<ヘルスプロモーション領域>の<<入手能力>>24.4 ± 10.9は「不十分」に該当した。</p> <p>これらのことより、介護予防・健康増進活動に参加する本研究の対象者は健康への高い関心を持っていると言えるが、HLの標準化指数は総合・3領域・4能力において全て「やや不十分」と判定されたため、高齢者のHL向上への介入の必要性が示された。特に半数以上の者が利用していなかったインターネットの普及に加え、「困難」であった者の割合が最も多かったメディアの操作や、そこから得た情報の信憑性の判断についての研修会や勉強会の開催、膨大な情報を正しく理解・評価・活用できるような支援やサポート体制の充実化が求められる。また、HL向上へのより具体的な政策や事業、教育、看護支援を示すために、高齢者が入手した健康情報をどのように理解・評価・活用につなげているのか、そのプロセスや関連要因についても明らかとしていく必要があると考えられた。</p>			
今後の展開			
<p>引き続き更なる分析を進め、本研究の成果を学術集会にて公表し、論文投稿を目指す。</p> <p>また、今後の展開として、活動へ参加していない、在宅で介護を担っているなど、状況の異なった高齢者を対象にHLの実態調査を行うことや、高齢者が入手した健康情報をどのように理解・評価・活用につなげているのか、そのプロセスや関連要因についても明らかとしていく。</p>			